

育しているクロマルハナバチを用いて研究を行なっていくことを決定しました。

研究室に配属され、ひとまず一年間は大学での**研究準備の期間**としてゼミに参加しながら様々な種のアチや社会性昆虫に関する知識教養を身に着けました。また、今後の展望としてマルハナバチ属コロニーの成長と餌資源に関する研究を2年次から開始しようと考えています。

また、保全生態学研究室ではマルハナバチはもちろんのこと、クワガタ・ハナカマキリ・コウモリ・ウシガエルを研究している先輩方がいらっしゃいます。夏休みには、過去に卒業した先輩とウスバキトンボの全国調査に参加しました。そのため、私はこの一年間でアリやハチに関する知識だけでなく、**多様な生物に関する知識**を得ることができました。多種多様な方たちに大学一年生のうちから囲まれて刺激的な生活を過ごせるのもこの研究室で研究マインド応援プログラムを利用することの一つの魅力だと思います。

最後に、研究室ごとに事情は違うものの、生物学類の先生は学生の研究に対する熱意を全力で支えてくださる方が多いと思います。皆さんも、何か不思議なこと、気になることがあったらチャレンジしてみるのもいいのではないのでしょうか。

6.2.4. 初めてのペットは細胞

研究分野：ケミカルバイオロジー

研究者：石川 夏帆

指導教員：臼井 健郎先生

私は研究マインド応援プログラムのことを新歓の中で初めて知りました。私はそれまで研究活動をしたことがなく、大学に入ったら**できるだけ早く研究に携わってみたい**と考えていたので、本プログラムにとっても興味を持ちました。まずは気になる研究室をHPで探しました。私は小さい頃から昆虫が好きで、バイオミメティクスの分野に興味があったので、そのような研究ができる研究室を探しましたが、HPを見た限りでは昆虫系で気になる研究をしている所は見つかりませんでした。一方昆虫以外ではいくつか気になる研究室が見つかりました。先述の通り私は前から**昆虫の研究がしたい**と思っていたので、どうするか非常に悩みましたが、とりあえず気になる**研究室を見学**してみることにしました。

私が1番気になったのが、ケミカルバイオロジーを専門とする臼井健郎先生の研究室でした。というのも、私は母が製薬会社に勤めており、私立の薬学部も受験したくらい**製薬にも興味**がありました。先生にメールで研究室見学を希望する旨を伝えると快くOKしてくださいました。見学当日はパワーポイントの資料をスクリーンに映しながら、先生がわざわざ時間をとって私のために研究内容の説明をしてくださいました。時々高校生物の範囲の問題を出すなどお喋りを交えて説明してくださったので楽しかったのを覚えています。ケミカルバイオロジーは大まかに言うと、薬剤を使って標的分子の同定□作用機構解明をしたり、逆にその結果から薬剤の改善を行うといったものです。先生から伺った研究の中で1番興味を持ったのが、注射薬を塗布薬にする研究でした。私は注射がとても苦手なので塗布薬になったらどんなにいいだろうと思ったからです。

そ4月のうちに研究室の見学までしたわけですが、私が実際に本プログラムを始めたのは10月からです。生物学類の1年生は基礎生物学実験や六概論でとても忙しく、その上私は部活動もしていたので、筑波での生活に慣れないうちは研究活動をする余裕がないと思ったからです。10月になって秋学期が始まり、大学生生活も落ち着いてきたところで本プログラムに応募する決意をしました。昆虫の研